

食料はどこから —フードマイレージを学ぶ—

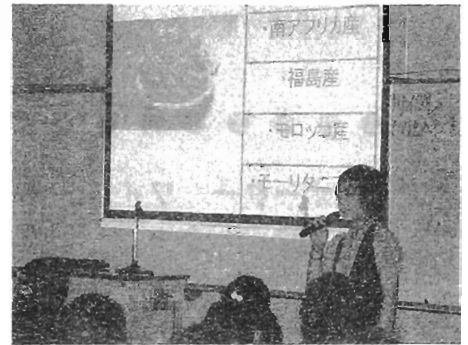


130名の日本女子大学の学生たちの目が輝いた
—センスオブアースが学生と出張授業—

6月27日

日本女子大学

6月27日（金）、SOEの寺田理事長と5人の学生スタッフがゲストティーチャーになり、日本女子大学人間社会学部（川崎市西生田キャンパス）で生涯学習概論Ⅰの授業を行った。事前にワークショップなどを通して鍛え上げられた彼女／彼らは、約130人の学生の熱い視線にひるむことなく、リレー方式で堂々と教師の役割を果たしたのであった。



マイクを手に教壇で授業をしているのは
センスオブアースの大学生スタッフ

授業は、三つのステップに沿って実行された。

第1ステップは、スーパーのチラシから食品の原産地を調べ、世界地図の該当国に食品・産地名を書き込む活動。受講生は3人ずつのグループに分かれ、楽しそうに地図に食品名を書いていく。なかには、北海道フェアのチラシを持ってきたために、全部日本というグループも…。第1ステップの学習を通して、世界各国から食品が運ばれてくることを実感！

第2ステップは、「マグロ、イクラ、イカ、タコ、エビ、大葉、などをネタにして手巻き寿司をつくとしたら、どこの国から来たものが美味しそうですね？」と投げかけ、六つのネタごとに自分の好みの原産地を選ぶという活動。原産地ごとに点数が付いていて、自分の合計点数が明らかになる。高得点で誇らしげな学生もチラリホラリ…。しかし、実はこの点数は日本まで運ぶのにどの位のエネルギーを必要とするかという数値（フードマイレージ）であり、高得点はむしろ



大学生スタッフの授業を熱心に聴く日本女子大の大学生のみなさん

る持続可能な社会に反することを意味する。低得点が好ましいと伝えて再度挑戦してもらった。今度はほとんどの受講生が1回目よりも低い数値に。そのうえで、フードマイレージ（食料を運ぶ距離 $\text{〇〇kg} \times \Delta \Delta \text{t}$ で表す。CO₂の排出規模がわかる）の説明とゲームの数値がフードマイレージを表し日本が突出して高いこと、日本の食糧自給率39%で先進国の中で一番低く、世界中から、食料を買っていることの解説を行った。受講生は、健康にも地球にも良い地産地消の意味をおおいに納得！

第3ステップでは、持続可能な社会をつくるために自分自身に何ができるかを書いてもらった。二つのステップでの学習効果はバッチリで、各自2枚の付箋紙に書いてもらった内容は、すばらしいものばかり。寺田理事長と学生スタッフが合計260枚にのぼる付箋紙を要領よく分類して模造紙にペタペタ。（アクション）“買い物で”“家の中で”“3R-リサイクル・リユース・リデュースでやれること”その他で分類。学生たちは、買い物で、国産品や、近場の生産物を買うこと、レジ袋を断る、エコパックを使う、無駄な買い物をしない、家の中で残さず食べる、冷房の温度を下げすぎない、シャワーを止めて洗う、など、いつでも取り組める行動目標を大量に掲げた。

最後に、寺田理事長から持続可能な社会づくりの解説と、今、世界の温暖化の加速と食糧危機・一日2ドル以下でくらす人が23億人いること、日本は支援している食料より捨てている食料のほうがずっと多いことなどを熱っぽく講義。体験的な学習を三つのステップで行ってきた受講生は、真剣に聞き入っていた。地球温暖化と戦う決意を新たにした学生たちがたくさん誕生！ということを確認できる授業であった。



SOE 大学生スタッフの皆さんおつかれさまでした。
今回の記事も担当していただいた田中先生（左）
SOE 理事長寺田（左から二番目）
授業終了後の記念写真

ジュニア ウォーター ワイズ キャンプ (JWWC) からお知らせ 大洗の海 ロングキャンプのお誘い

あと数人、参加できます。

日時 7月27日(日)～8月9日(土) なんと14日間

会場 大洗の海(磯・浜・湖沼・那珂川) 宿泊 大洗サンビーチキャンプ場

対象者 小学校4年生～中学生(20名)

内容 サーフィン・ヨット・カヌー・つり・磯遊び・ジュニア・ライフ・セービングなどの体験

費用 126,000円(全三食付き、保険、用具代含む)

主催 NPO法人 大洗海の大学

後援 茨城県教育委員会・水戸市教育委員会・大荒井町教育委員会(予定)

指導者 キャンプコーディネーター、カヌーインストラクター 中川祐二他

申し込み先 NPO法人 大洗海の大学 茨城県東茨城郡大洗町大貫町 1212-5

tel 029-266-3322 fax 029-267-5417

NPO 設立 4 周年目を迎えて

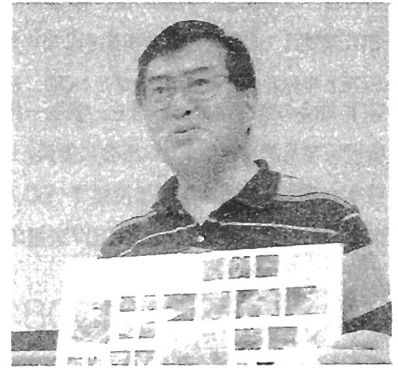
当 NPO は創設から今年で 4 年目を迎えました。月に 1 回発行するニュースも 38 号目を数えます。区内の学校ビオトープ取材、沖縄エコツアー（年に 1 度実施）、野鳥観察、食育の出前授業（豆腐づくり授業）、フードマイレージ出前授業、ヤゴ救出の出前授業、荒川の水質定点観測など、「環境問題」という大きなテーマの中から、自分たちの等身大的なテーマを選択して取り組んでまいりました。NPO の生命線は「情報を発信し続ける」ことにあると考えています。たとえ蟻のくしゃみほどの内容でも、継続するところから新たな発想や行動が生まれてくる・・・と信じながら。ニュース冒頭にこのような挨拶で恐縮ではありますが、今後は情報を発信するだけでなく、「双方向での情報の共有」を目指しながら活動を続けていきたいと考えておりますので、お気づきになられたことがございましたら、当 NPO のホームページまでお気軽にご意見を頂戴いただければ幸いです。

●記念講演報告

今回、節目の記念としてナチュラリストの藤本和典さんをお迎えし、「楽しいわが家のエコライフの作り方」という、エコポリスセンターとの共催講演会を開催しました。

当日は藤本さんのこれまでに撮り貯めてこられた、鳥や虫、植物の写真をスライド上映しながら興味深いお話を聴くことが出来ました。

藤本さんは某ハウスメーカーと一緒に、里山再生を目指した「5本の樹」計画を全国規模で展開されていらっしゃいます。明日からでもできそうな具体的なノウハウを聴きながら、自然との共生という問題を改めて考えさせられる講演会でした。



【5本の樹運動】

某ハウスメーカー主導による「5本の樹」計画は、庭先から日本の自然、里山を再生しようと 2001 年からスタートしたものだ。緑の質にこだわりを持ち、各地の風土に適した日本の原種や自生種、在来種の樹木に限定して植栽することを提案している。たとえば、コナラは 300～800 種の生きものが宿るが、外来種のヒマヤラスギは 20～30 種しかやどらない。日本の在来種を植える大切さ。サクラはソメイヨシノでなくヤマザクラ、アキグミ・コブシなどがよい。

この「5本の樹」計画によって、10年で380万本植え、2006年度だけで植栽した樹木は実に75万本に達している。75万本の植栽は、1年間で約4,400トンのCO₂を削減した効果に匹敵する。

藤本和典さん

「ご近所の底力」「世界不思議発見（コスタリカ）」でおなじみのナチュラリスト。全国の幼稚園～大学、地域の自然観察会のインタープリターとしても活躍中。



記念講演の会場は、ニュース
エコポリスセンター



◎ S.O.E. 活動報告 (2008年6月)

日	曜	内 容
1	日	藤本和典さんのエコライフ講演会のチラシ作成、印刷、発送、配布、志村三丁目駅にチラシ依頼
2	月	第5回沖縄エコツアーの打ち合わせ
3	火	ヤゴ救出作戦エコポリ出前授業 高島第三小 SOE学生参加
4	水	～5日まで SOEニュース6月号の原稿書き 諸連絡
7	土	日本女子大学人間社会学部教育学科1年講義寺田 テーマ「学校と地域・保護者との協働」 —SOE上岡洋子外部講師として、学校のピクトブ作りを学生に語り、感動を与えた。
8	日	SOEニュース6月号発行作業・2400部発送・事務局会議
9	月	～21日まで エコライフ講演会呼びかけ・日本女子大学でのSOEのフードマイレージの授業準備
14	土	全国河川の水質調査活動 SOE担当舟渡水辺公園で水質検査を行った。 日本女子大学で、沖縄エコツアー説明会を開いた。申し込みが始まった。
19	木	板橋第七小 1年 中野教諭の授業参観 日本女子大学の教職基礎論寺田の授業として1年生75名が参加した。 授業後、体育館で、質疑応答。板七小の先生方10数名が質疑に対応してくれた。
22	日	SOE総会1:00～・藤本和典さんのエコライフ講演会 2:30～4:30
24	火	SOEと学生とのワークショップ1:00 日本女子大生涯学習概論の準備 SOE総会の報告書会計関係を、齋藤一輝税理士がチェック。
26	木	板橋区環境教育プログラム部会に委員として出席 2～4
27	金	日本女子大学生涯学習概論授業で150人に講義(フードマイレージ) 寺田と学生スタッフ4名
30	月	内閣府市民活動促進課へ、2007年度の活動報告会計報告を送付

◎ S.O.E. 活動予定 (2008年7月)

1	日	食べものはどこから—フードマイレージの授業について板橋区内小学校へ打ち合わせ —志村第四小・桜川小・板橋第七小 3校回る。
4	金	板橋第七小の環境教育—緑から学ぶ—についての、研究紀要へ、 寺田理事長が地球温暖化と緑から学ぶ環境教育について原稿を寄せる。
8	火	志村第四小 5年89名に総合の時間「食べものどこから」フードマイレージの外部授業をSOEが行う。 寺田・柳 学生スタッフ4名参加予定。
10	木	桜川小 5年113名に総合の時間「食べものどこから」フードマイレージの外部授業をSOEが行う。 寺田・柳 学生スタッフ5名参加予定。
10	木	7月号ニュース原稿かき。田中・先崎・寺田
13	日	SOEニュース発行作業 2400部発送・事務局会議予定
14	月	板橋区立富士見台小学校5年生67名「食べものどこから」フードマイレージSOE授業予定
15	火	板橋区立板橋第七小学校5年生54名「食べものどこから」フードマイレージSOE授業予定
21	月	SOE学生とのワークショップ・出張授業の反省会
22	火	沖縄エコツアー参加申込者へ、しおり作成 送付。
24	木	板橋区環境プログラム部会 2～4 寺田参加予定
25	金	沖縄エコツアー現地との連絡・ツーリストの連絡等

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp